

● 診療科の特色

1. 総合周産期母子医療センター

私たちの施設は、2005年に新生児科とともに岡山県から総合周産期母子医療センターに指定されて以来、麻酔科をはじめ各科のバックアップをいただきながら、他の周産期センターと協力して、岡山県の母子保健の向上に努めてきました。当院は、小児外科も充実しており、多数例の小児外科疾患を胎児期から小児外科医とともにフォローさせていただいています。

私たちの施設では、奇形をもった児や早産などで出生後NICUに入院となる児の両親には、新生児科や小児外科から予想される出生後の児の状況について説明をしてもらうことを大事にしています。ご両親は、自分のこどもが出生後にどのような治療を受け、どのように育っていくか、について心配されています。ご両親にとってすごく大切なことと考えています。

● 入院診療実績

1. 婦人科 主要手術

年間手術件数 50 件

	手術名	件数
1	子宮頸部円錐切除術	13
2	子宮附属器腫瘍摘出術(腹腔鏡)	12
3	腔式単純子宮全摘術(LAVH)	7
4	子宮内膜ポリープ切除術	4
5	腔式単純子宮全摘術+腔会陰形成術	3
6	腹式単純子宮全摘術(ATH)	2
7	子宮悪性腫瘍手術	2
8	子宮筋腫核出術(腹腔鏡)、(子宮鏡下)	2
9	附属器腫瘍摘出術(開腹)	1
10	その他	4

2. 産科診療実績

総分娩数 349、出生児数 387(死産 7)、多胎分娩数 35(双胎 32、品胎 3)でこの年度の帝王切開率は 42.1%でした。以前に比べると増加傾向にありますが、原因として母体年齢の高齢化と多胎妊娠における分娩割合の増加が考えられます。母体年齢の高齢化は著しく、昨年は全体の約半数(41%)を 35歳以上の妊婦が占め、40歳以上の妊婦では 13%を占めています。また、近年は全国的に出産数が減少しています。当院も分娩数は減少していますが、その中で多胎妊娠の割合が増えています。当院の帝切率は周産期センターの中では全国的にみても低率のグループで、既往帝切後の経膈分娩や双胎妊娠の経膈分娩、未熟児や低置胎盤の経膈分娩など、できるだけスタンダードな分娩を目標にしてきた結果と考えています。しかし、こういった分娩は緊急帝王切開のリスクや出生時の児のリスクも高いため、麻酔科医や新生児科医の昼夜を問わないバックアップが必要であり、各科の協力体制の賜物と言えます。

3. その他

多胎妊娠は、単胎妊娠に比べ妊娠および分娩におけるリスクが高いため、2016年10月より、毎週火曜日と水曜日、金曜日の午後に多胎外来を設置し、専属医師による継続的な管理を行い、必要があれば適宜、入院していただき、より厳密な管理を行っています。近年の分娩数減少の中で、多胎妊娠の割合は増加傾向にあります。2022年より NIPT 基幹施設に認定され、出生前診断外来を設置し連携施設と協力しながら毎週月曜日、木曜日に診療を行っています。

● 研究業績

論文

- 1) 多田 克彦
A型食道閉鎖④,Ⅲ 症例紹介
食道閉鎖のすべて. 第1版,160-162,2022年4月1日
- 2) 多田克彦,宮木康成,安日一郎,野見山亮,兒玉尚志,江本郁子,大蔵尚文,水之江知哉,前田和寿,前川有香
分娩後異常出血症例における凝固線溶系分子マーカーを含む臨床データの特徴
日本産婦人科・新生児血液学会誌,32巻,1号,19-20,2022年5月1日
- 3) 岡本遼太,多田克彦,熊澤一真,沖本直輝,塚原紗耶,吉田瑞穂
外傷等の誘因なく発症し慢性経過を辿ったと考えられた重症母児間輸血症候群の1例
現代産婦人科,70巻,2号,403-408,2022年6月1日
- 4) 橋本阿実,塚原紗耶,沖本直輝,岡本遼太,甲斐憲治,吉田瑞穂,熊澤一真,多田克彦
虫垂穿孔による汎発性腹膜炎を発症し超早産に至った双胎妊娠の1例
現代産婦人科,71巻,1号,51-55,2022年12月1日
- 5) Tada K,Miyagi Y,Komatsu R,Okimoto N,Tsukahara S,Tateishi Y,Ooka N,Yoshida M,Kumazawa K
Fetal Cerebellar Growth Curves Based on Biomathematics in Normally Developing Japanese Fetuses and Fetuses with Trisomy 18
Acta Med Okayama,76,6,645-650,2022DEC

学会発表

- 1) 分娩後異常出血症例における凝固線溶系分子マーカーを含む臨床データの特徴
多田 克彦
第32回日本産婦人科・新生児血液学会 2022年6月3日
- 2) 常位胎盤早期剥離を除く分娩時大量出血症例の凝固障害の診断における産科DICスコアの弱み
多田 克彦
第89回岡山大学医学部産科・婦人科学教室同門会 2022年6月12日
- 3) 分娩時大量出血症例の急性期における凝固線溶系検査の特徴
多田 克彦
第44回日本血栓止血学会 2022年6月25日

- 4) 鎖肛の出生前診断と産科一次施設の取り組み
多田 克彦
第 58 回日本周産期・新生児医学会 2022 年 7 月 10 日
- 5) 分娩時大量出血における凝固線溶系分子マーカーを含む臨床データの特徴:多施設共同前向き症例集積研究
多田 克彦
第 58 回日本周産期・新生児医学会 2022 年 7 月 11 日
- 6) 子宮頸管短縮症例に対する頸管ペッサリーの有用性に関する検討
熊澤 一真
第 58 回日本周産期・新生児医学会 2022 年 7 月 11 日
- 7) 常位胎盤早期剥離を除く分娩時大量出血における産科 DIC スコアの診断能力
多田 克彦
第 74 回中国四国産科婦人科学会 2022 年 9 月 18 日
- 8) 分娩時大量出血で認める凝固障害の分類と凝固線溶系検査値ならびに臨床像の特徴
多田 克彦
第 47 回岡山産科婦人科学会 2022 年 11 月 20 日

座長

- 1) 第 58 回日本周産期・新生児医学会 2022 年 7 月 11 日
一般演題(ポスター)「PPH・血栓塞栓症など」
多田 克彦
- 2) 第 47 回岡山産科婦人科学会 2022 年 11 月 20 日
一般演題「第 1 群 周産期」
熊澤 一真